

**P10 思春期の保健行動を向上させるアプローチ法の検討 — 2種類の質問表の比較 —**  
Examination of the Approach Method to Improve Health Behavior in Adolescence  
— Comparison of two Kinds of Questionnaires —

○ 藤嶋千春、岩男好恵、柏木伸一郎

Chiharu Fujishima, Yoshie Iwao, Shinichiro Kashiwagi

小児歯科 柏木医院

Kashiwagi Dental Clinic for Children

【目的】 思春期になるとそれまで定期的に来院していた者も、自我の芽生えや生活環境の変化により来院が中断しがちとなる。そこでこれらに対し、自己管理および健診の必要性を認識させる有効な指導法の確立を目指した。

【対象及び方法】 対象は、低年齢から定期受診中の小学校5年生から中学校1年生まで、男女各20名の計40名とした。診療開始前に、2種類の質問表に記入してもらい、それを基に歯科衛生士が指導を行った。

2種類の質問表の1つは、患児に興味を持たせることを目的に、質問に対しYes・Noの矢印を進み、最後に6項目に分類されるチャート式とした。これにより、歯科的な知識や意識・保健行動・健診に対する関心のどれに、本人の問題点が当るかある程度分類することが出来る。

2つ目の質問表は、本人に気づきを起こさせることを目的に、9項目の質問にYes・Noで回答させる選択式とした。

【結果及び考察】 2種類の質問表は、患児に興味を持たせること、本人に気づきを起こさせることに関し、ほぼ目的を達成することが出来た。しかし、チャート式においては、う蝕の問題からスタートしたため、歯肉炎の問題がはっきりしてこなかった。また選択式に関しては、本人の回答と実際の口腔内状況とに違いが生じた場合、指導の方向性がずれてしまうことが問題となった。今後、以上の問題点の改善を図ると共に、質問表の使い方にも検討を加えていく予定である。